（C）日刊スポーツ新聞社

東北6県版

TOHOKU

tohoku@nikkansports.co.jp

仙台一エース 昨春宮城準V
東北大佐藤 合格

仙台一のサイドスローが大学でも文武両道を貫く。昨春の宮城県大会でチームを準優勝に導いた仙台一のエース・佐藤昴投手（18）が今春から東北大経済学部に進学することがわかった。準優勝と合格を勝ち取った佐藤が、大学でも二兎（にと）を追って、二兎を得る。

目標に「七大戦優勝」を掲げ笑顔でガッツポーズする仙台一・佐藤

文武両道を実現

“継続は力なり”を体現した。昨夏の県大会初戦、東北に0―7のコールド負けを喫し現役を引退。8月に部の体験会を手伝ってからはグラブも触らず、完全に勉強に切り替えた。大学共通テストの自己採点は633点と、東北大のボーダー予想720点に10％足りなかったが、全体の得点が昨年より約5％下がったと言われていたこと、ボーダー予想から5％下までであれば過去の事例からギリギリ合格を狙えることから、「出すだけ出そう」と受験を決意。佐藤は「受かるとは思っていなくて、正直びっくりしました。合格を見てホッとしました」。あきらめずに勉強に取り組んだ結果が待ち望んだ春につながった。

継続が身を結んだのは勉強だけではない。2年秋の県大会準々決勝、仙台二は柴田に1―6で敗れた。柴田はその後、東北大会を勝ち抜き準優勝、センバツ出場を決めた。佐藤は「その時はそんなに力の差を感じていなかった。負けたポイントもしっかりと理解していた分、すごく悔しい思いをしました」。チームはそこから半年をかけて柴田のデータを収集。万全の対策を練った昨春の県大会、再び柴田と準々決勝で相まみえ、4―3で勝利。佐藤は「半年以上、ひとつのことに一生懸命になったことで継続の大切さを学びました」。半年間の努力で得た勝利は特別なものとなった。

七大戦も楽しみ

佐藤の野球は、千葉厚監督の「サイドスローにしよう」という進言をきっかけに大きく変わった。佐藤は「そこからちゃんと投げられるようになりました。自分の価値観が変わった。野球人生が変わった一言です」と振り返る。1年の秋、なりたてのサイドスローで臨んだ仙台商戦は0―7、ノーヒットノーランのコールド負け。大敗したが佐藤はあきらめず、1年間サイドスローの向上を「継続」した。1年たった2年秋の県大会3回戦、仙台商を相手に佐藤が9回を投げきって2―1。佐藤は「公式戦では同じ相手に2度負けていないと思います」。負けても立ち上がり、リベンジを果たす「継続」が佐藤の根底にある。

東北大では、東北6大学リーグはもちろん、旧帝大との七大戦も楽しみにしている。佐藤は「日本各地の文武両道を実現させた選手たちと戦ってみたいです」。何度でも立ち上がり、「継続」を力に変えて文武両道の頂点を狙う。

◆佐藤昴（さとう・すばる）2003年（平15）6月15日生まれ。宮城県岩沼市出身。小学2年から岩沼西スポーツ少年団で野球を始め、中学は岩沼西中でプレー。高校2年で秋の県大会で公式戦初登板。171センチ、70キロ。右投げ左打ち。

21年5月、仙台育英戦で力投する佐藤

◆大相撲春場所◆ 郷土力士の星取表

青森

【幕内】　1234
東前3　阿武咲㉕(阿武松＝中　泊)○●●●
東前5　宝富士㉟(伊勢ケ浜＝中　泊)●○●●
【十両】
西5　錦富士㉕(伊勢ケ浜＝十和田)●●●○
【幕下】
西14　長　内㉓(高　砂＝鶴　田)○●○●
東19　大成龍㉙(木　瀬＝八　戸)●○●○
東55　竜乃富士㊲(境　川＝つがる)●●●○
【三段目】
西12　海　真⑳(田子ノ浦＝大　間)●○●○
【序二段】
東21　北勝潮㉑(八　角＝青　森)●●●○
【序ノ口】
西1　美ノ富士⑳(伊勢ケ浜＝五所川原)●●●○

岩手

【幕内】
東前16　錦　木㉛(伊勢ノ海＝盛　岡)○○○●
【幕下】
西32　和　山㉔(武蔵川＝二　戸)●○●○
【三段目】
西20　秋　良⑳(阿武松＝滝　沢)●○●●
東32　漣　之㉒(伊勢ノ海＝奥　州)○●●○
東43　時乃平㉒(時津風＝八幡平)●○●○
東74　関　王㉑(伊勢ノ海＝一　関)●○●○
【序二段】
西32　禎ノ花㉔(阿武松＝花　巻)●●●○
【序ノ口】
西7　琴力泉㉘(佐渡ケ嶽＝岩　泉)●●●○

秋田

【幕下】
東26　将豊竜㉕(時津風＝横　手)●●●○
東28　佐々木山㉚(木　瀬＝大　館)●○●○
東49　竜　風㉘(尾　車＝井　川)●○●○
【三段目】
東34　琴拓也⑲(佐渡ケ嶽＝大　館)●○●○
西43　庄　司㉑(武蔵川＝美　郷)●●●○
【序二段】
東69　奥羽桜㉙(式　秀＝横　手)●●●○

山形

【十両】
東10　北の若㉑(八　角＝酒　田)○○○●
東12　白鷹山㉖(高田川＝白　鷹)●●○○
【幕下】
西25　琴羽黒⑲(佐渡ケ嶽＝鶴　岡)○●●○
【三段目】
西22　琴ノ藤⑳(佐渡ケ嶽＝尾花沢)○○●○
西33　高鳥山㉑(尾　上＝米　沢)●○●○
【序二段】
東41　高倉山㉓(尾　上＝米　沢)●●●○
西75　最上錦㊴(木　瀬＝大　蔵)●●●○
東94　琴大興㉗(佐渡ケ嶽＝東　根)●●●○

宮城

【幕下】
　時栄改め
西41　時疾風㉕(時津風＝栗　原)●○●○
東50　大　畑㉕(時津風＝栗　原)○●●○
【三段目】
西23　朝天舞㊵(高　砂＝石　巻)●●●○
東90　若　東⑱(玉ノ井＝石　巻)●●●○
　下山改め
西91　時　虎⑳(時津風＝登　米)■●●○
【序二段】
東25　謙　豊㉚(時津風＝大　崎)●●●○
東42　石　東㉓(玉ノ井＝石　巻)●●●○
西47　寺尾翔㉓(錣　山＝登　米)○●●○

福島

【幕内】
東関脇　若隆景㉗(荒　汐＝福　島)○○○●
西前9　若元春㉘(荒　汐＝福　島)●○●○
【幕下】
西13　若隆元㉚(荒　汐＝福　島)●●●○
　丹治改め
東45　大　賀⑲(荒　汐＝福　島)●●●○
【三段目】
東22　東　翔㉚(玉ノ井＝会津若松)●●●○
西42　田　清㊱(出羽海＝郡　山)○●●○
西67　北勝旺㉙(八　角＝会津若松)○●●○
西72　森　㉙(玉ノ井＝相　馬)●●●○
【序二段】
西13　巨　東㉛(玉ノ井＝富　岡)●○●○
東17　清の花㉖(出羽海＝郡　山)○●●○
西56　福　東㉒(玉ノ井＝福　島)○●●○
東64　二本松㉕(式　秀＝二本松)●●●○
東66　東　山㉗(玉ノ井＝南相馬)●○●○
東68　岡ノ城㊱(出羽海＝郡　山)○●●○
東78　東　浪㊲(玉ノ井＝浪　江)●○●○
【注】やは休み、■は不戦敗

◆東北6県のアマチュアスポーツ写真をお分けします◆　サイズ、料金などをお問い合わせの上、お申し込みください。〒104・8055東京都中央区築地3の5の10、日刊スポーツ新聞社フォトサービス☎03・5550・8831、平日の10時から17時30分まで

甲子園 笑顔で楽しめ

センバツ21日大垣日大戦

13人中9人を中学時代に指導 只見中・渡部兼介監督
只見へエールを

センバツに臨む教え子の活躍を願う只見中・渡部監督　下右 只見の選手13人のうち、吉津塁主将（前列中央）ら9人が只見中出身だ

自分も夢見た舞台

あの子たちが、甲子園に行く―。センバツ出場校が決まる1月28日。渡部監督は雪が降る中、教頭とともに雪かきの道具やつるはしを使って雪割をしていた。午後3時過ぎ。奥会津に吉報が届いた。「（出場が）決まったときはうれしくて…。驚きもありました」。自身は相馬高（福島）で白球を追いかけ、東学大でプレー。かつて自分も夢見た舞台で教え子がプレーする瞬間を想像し、笑顔になった。

同大卒業後は都内の中学教諭を務め、4年前から只見中の教壇に立った。当時の2年生に吉津塁主将（2年）らがおり、18年7月、上級生の引退に伴う世代交代で前任から監督を引き継いだ。新主将の選定は「自分たちのキャプテンなんだから、自分たちで決めるように」と伝え、大竹優真投手（2年）が主将、吉津が副主将に就任した。

昼休みも練習した

野球を楽しむ姿が心に残っている。部員は昼休みになると、ボールとグラブを持って校庭へ。約40分間、守備や投球練習をしていた

という。渡部監督は「部活動以外の時間でも野球を楽しみながらやることが伝わってくる子たちでした」。グラウンドが使用できない冬は、学校の地下にある屋内のスペースや階段をダッシュ。土日は、ほかの部と練習場所が重なることを防ぐため、近隣にある小学校の体育館で練習した。

「最低2本打てよ」

20、21年に同中を卒業した教え子が主力でつかんだ甲子園出場。渡部監督は選手の家族らに祝福の連絡。その際に山内友斗捕手（2年）らと話ができた。「甲子園は野球をやっている人なら全員憧れで、信じられないけどすごいなと…。山内は中学の時に4番だったので、ホームランボールをお土産にと。第1号は自分で持っていていいから、第2号はくれと話しました。最低2本打てよと（笑い）」。

初戦は21日。大垣日大（岐阜）と対戦する。新型コロナウイルスの状況によるが「チャンスがあれば応援に行きたいです」。たとえ現地に行けなかったとしても、テレビ中継を見て応援するつもりだ。

渡部監督 一生にあるかないかの素晴らしい機会をいただいているので、とにかく全力で。中学校の時にやっていた、笑顔で楽しむことを甲子園でもやってほしいです。見てきたこっちもそれが伝わってきたし、周りも楽しませられるぐらい、甲子園の舞台で野球を楽しんできてください。

最後まで諦めずに戦う姿を信じて、一投一打に注目する。【相沢孔志】

「会津の誇り」

福島・会津若松の老舗すし店の親方が、センバツ初出場の只見に熱烈エールを送る。只見町出身の伊藤均さん（74）は会津若松に「亀井鮨」を開業して53年。自身、甲子園出場を目指して高校は栃木の強豪・作新学院に進学したが、甲子園には届かなかった。それだけに「こんなにうれしいことはありません。只見だけでなく、会津の誇りです」と心から祝福する。

対戦相手の大垣日大は、昨秋の東海大会4強の実力校。伊藤さんは「注目の対決になったのではないでしょうか。ナインには気後れすることなく戦ってほしい」と実力を出し切ることを切に願う。9日、大阪に向けて行われた「出発式」の際にも、吉津塁主将（2年）に「打席では1回でも多く振ってこい」と激励した。「自分自身が甲子園に出てないのによく言いますよね」と笑った。

亀井鮨は会津に限らず、福島県内からも多くの客が詰めかける人気店だ。常連客の1人は「すしがうまいのは当然だけど、親方の人柄が最高」と話した。試合当日、伊藤さんはお店があるのでテレビ観戦だが「選手たちが帰ってきたらすしをごちそうしたいね。頑張れ」と優しい目で話した。

帰ってきたらごちそうしたいね

只見町出身「亀井鮨」伊藤均さん

只見にエールを送る亀井鮨の伊藤均さん（左）と多傳子夫人

開幕3連戦含め今年の観戦はお得いっぱい

週刊イーグルス

日刊スポーツ東北版で毎週1回、楽天情報をお届けする「週刊イーグルス」。今回は、開幕特集としてお得な情報をたくさんご紹介します。

いよいよ25日ロッテ戦から東北楽天ゴールデンイーグルスの22年シーズンが開幕します。25～27日の開幕3連戦は「タイヤはフジｐｒｅｓｅｎｔｓ ＯＰＥＮＩＮＧ ＳＥＲＩＥＳ」を開催。フリース2ｗａｙブランケットをスタジアム外周3塁側プレゼントエリアで来場者全員にプレゼント（外野ライトビジター指定席及びスマイルグリコパーク入園券はプレゼント対象外）。正面広場では「あったか鍋まつり」も開催します。

フリース2wayブランケット

内側がMyHEROタオル柄デザインになったバッグ

MyHEROタオルを手にする安田悠馬選手

さらに開幕3連戦では、MyHEROタオルを通常1200円のところ特別価格の1000円で販売。また、今年は各試合100セット限定で、内側がMyHEROタオル柄デザインになったバッグにMyHEROタオル19枚が入った限定セットを販売します。1枚1200円のタオル19枚で総額2万2800円のところ、このために作られた特別なバッグに入ってなんと1万4800円（税込み）と大変お得。さらに購入された方はその場で選手直筆サイン色紙（各日25枚ずつ）があたる抽せん会に参加できる特典もあります。

さらに4月1、5、6、12、13、14日にはMyHEROタオル付きの観戦チケットが1500円で登場（席種は球団指定）。このチケットはEチケのみの販売で、なくなり次第終了。楽天イーグルスショップ、楽天生命パーク宮城チケットカウンター、電話予約での販売はないのでご注意を。

そして、スタジアムグルメを1500円以上ご購入の方にMyHEROタオル柄のシールを85種の中からランダムで1枚プレゼントします。

開幕3連戦を含め、今年の試合観戦はお得がいっぱい。あなたもスタジアムに足を運んで勝利を後押しをしよう。詳細は球団WEBサイトで。

6年間の集大成

第1回全日本少年少女空手道選抜大会記念事業

第1回全日本少年少女空手道選抜大会記念事業が12日、宮城県空手道連盟主導のもと「選手の努力に報い、子どもたちの思い出作り」として宮城・セキスイハイムスーパーアリーナで開催された。全日本少年少女空手道選手権大会（全少）に小学1年生から6年生まで全て出場した佐々木晃紀（名取市立下増田小6年＝和道会名取）と土屋遼人（富谷市立成田小6年＝昇道館）は、6年間の集大成を見せた。

子どもたちの努力に報い、思い出作り

昇道館・土屋遼人 形
和道会名取・佐々木晃紀 組手

形を決める昇道館・土屋

和道会名取の佐々木（右）

宮城県代表が勇姿
目標は「喜友名諒選手の強さ」
「守りの構え」貫き全国に通用
次の舞台で大きく開花へ

全国9地区の対抗戦形式を予定していた同大会は新型コロナウイルスの影響により中止。今大会は宮城県代表選手のみで行われた。

組手小学生男子6年の部に参加した佐々木は「自分は守りの構え。今日は元々の自分よりうまくできなかったですが、それだけでも守ることができてよかったです」。1勝1敗の成績に満足はできなかったが、自分の構えを貫いた。佐々木は6年間を振り返って「1年生と6年生の全少はベスト8、別の全国大会でも入賞している。全国に通用できると感じました」と、空手での成長を実感した。

全少の男子形で小学2年時に5位、3、4、6年時に2位に輝いた土屋は「大会は中止になったけど、形を打つことはできたので悔いはないです」と振り返った。形小学生男子6年の部の参加は土屋1人だったが、土屋は最後まで力強い演武を披露し「100点です」と笑顔。「1位を目標としてまだ頑張れる。これからも頑張っていきたいです」と将来を見据えた。

2人はこれからも空手を続けていく。佐々木は「大きくなるにつれて年上の方と対戦することが増えるので、その中でも勝ち抜ける選手になりたいです」、土屋は「喜友名諒選手のような、誰にも負けない強い選手になりたいです」と目標を語った。6年間で育んだ芽を次の舞台で大きく開花させる。

記念撮影 昇道館・土屋（左）和道会名取・佐々木

より強く！練習重ねた卒業生メッセージ

中学でもメダル取る
玄幸館・須知蒼心

小さいころはあまり強くなかったが、卒業前の大会でメダルを取れたことが一番の思い出。中学の大会では強い相手も多くなると思うが、またメダルが取れるよう頑張りたいです。

全国出場へ技を磨く
和道会はさま・遠藤星夜

教えてもらって練習した技が試合で出すことができた時がうれしかった。道場には全国大会に行く先輩も多いので、中学では全国大会に出場することが目標です。

好きな組手で世界目指す
日本空手協会加美支部・柴田芽依那

組手をはじめたころはあまり好きじゃなかったが、全国大会出場をきっかけに好きになった。これからの目標は全中選抜、ナショナルチームに入って世界を目指したいです。